

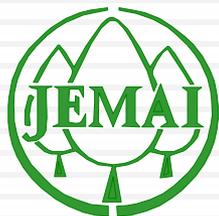
1

平成25年10月25日(金)

環境性能で勝つ！

—エコリーフ/カーボンフットプリントによるライフサイクルアプローチ—

エコリーフ・ カーボンフットプリントの 活用のヒント



一般社団法人産業環境管理協会
エコデザイン事業室 伊藤 聖子

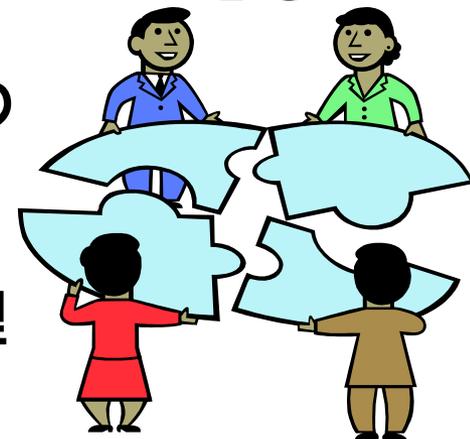


社内的な効果



2

- 具体的な数字で環境負荷が見えるので、ISO14001の取組などのテーマに挙げて改善を図るなどの活動ができる。
- 自分の部署だけでなく、製品でつながった他部署のことも考えた改善活動ができる
- 環境負荷いう新たな切り口でのムダ・改善点の発見を中長期的な取組・設備投資などの計画に取り込むことができる
- データの集計の過程で、CO₂、環境負荷以外のデータの管理もあわせて実施できる
- システム認定を社内の環境関連のデータ管理に活用できる

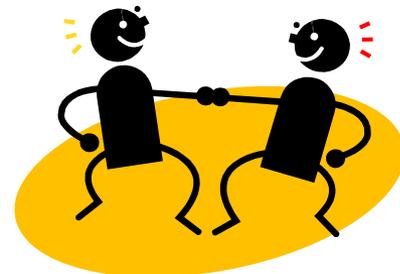


取引先への効果



3

- 「きちんとやってる会社」のイメージを持ってもらえる
- ある日突然データを要求されたときにうろたえずに済む安心感
- 取引先がLCA算定を始めた場合、先取りで実践しておくことで自社の強みとしてアピールできる
- 仕入先の管理に活用できる
- データのやりとりで日常的な信頼関係の構築。
- データの管理状況から取引先の信頼度チェックもできるかも。
- 取引先へ情報提供が可能になる(PS版→印刷物→出版物)
- 経団連の低炭素社会実行計画で製品の貢献量を評価する



ニュースリリースを出す①



・新しいこと・イイコトに取り組んでいる、という告知に使う

週間ゴムタイム
(2013.4.12)に
掲載されました



2013年4月12日

ニッタ株式会社
代表取締役社長 國枝 信孝
〒556-0022 大阪市浪速区桜川 4-4-26
TEL:06-6563-1211 FAX:06-6563-1218
東証・大証一部上場 証券コード:5186

中・高性能エアフィルタ『エメント™』 EP-90-F GO カーボンフットプリント宣言認定取得

ニッタ株式会社(大阪市浪速区、代表取締役社長國枝信孝)は、ビルや商業施設といった一般空調向け、医療施設、製薬やエレクトロニクス関連などの工場といった産業空調向けに、ガラス繊維素材の中・高性能エアフィルタ『エメント™』、『エスフレック™』、不織布素材の『リムライト™』を販売しております。

このたび、『エメント™』シリーズのうちユニバーサルエメント『EP-90-F GO』が、社団法人産業環境管理協会が運用しているカーボンフットプリントコミュニケーションプログラムにおいて、産業用エアフィルタで初めて¹カーボンフットプリント(CFP)宣言²認定を取得しました。



カーボンフットプリントとは製品の原材料調達から生産、使用/維持管理、廃棄/リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂に換算して、「見える化」(表示)する仕組みです。LCA(ライフサイクルアセスメント)手法を活用し、環境負荷を定量的に算定し、第三者による検証を経てCFP宣言として公開されます。CFPプログラムは、この見える化された情報を用いて、事業者と消費者の間でCO₂排出量削減に関する「気づき」を共有し、更なるCO₂排出量削減とより低炭素な生活の推進を目的としています。経済産業省などによるカーボンフットプリント制度試行事業を社団法人産業環境管理協会が2012年4月より民間事業として引き継ぎ、同年7月から本格運用を開始しました。

ニッタ(株)
http://www.nitta.co.jp/ntresources_uploads/2013/04/news_20130412.pdf



報道発表資料

2013年3月18日
ヤマトプロテック株式会社

防犯・防災専門サイト「セキュリティナビ」で紹介されました

『ヤマトプロテック、消火器業界最少のCO₂排出量消火器 カーボンフットプリント取得』 業界No.1企業としての「CO₂の見える化」社会的責任を果たします

総合防災メーカー・ヤマトプロテック株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長・乾 雅俊)は、消火器の製造において業界最少のCO₂排出量の消火器(カーボンフットプリント※1)を取得致しました。

このたび、カーボンフットプリントの集計を完了し、業界最少のCO₂排出量 YA-10X(CO₂排出量14kg)を導入しております。これは従来、主力製品であった加圧式消火器(YP-10)に比べ、蓄圧式消火器(YA-10X)は1本当たりのCO₂排出量が、約1.4kg低く、弊社の生産本数に当てはめると、年間約2,800トンのCO₂が原材料調達、生産から流通、販売、使用、廃棄の過程を通じて削減できます。

カーボンフットプリントの導入により、サプライチェーン全体でのCO₂排出量を「見える化」し、弊社では今後、サプライチェーンのどの部分においてCO₂削減の余地が大きいかを把握し、CO₂排出量の削減を効果的に達成したいと考えております。弊社が環境配慮企業のモデルとなることで、一般消費者のCO₂排出量削減に対する意識改革に繋がりたいと考えています。こうした試みにより、業界No.1企業としての社会的責任を果たしたいと考えています。

弊社は、消火器の販売本数で業界トップ(シェア約40%)であり、また消火器の回収リサイクル本数でも業界トップ(約50%)を占め、消火器の回収リサイクルを通じ廃棄物の削減に努めてきました。



弊社は、老朽化消火器による破裂事故の発生、不用消火器の回収・リサイクルの促進にあわせ、消火器の主力機種を従来の加圧式消火器から蓄圧式消火器に生産をシフトすることを発表させていただいております。(2010年9月13日公表)

カーボンフットプリント※1 商品のライフサイクル全体(原材料調達から廃棄・リサイクルまで)で排出される温室効果ガスの排出量をCO₂に換算して、当該商品に表示する仕組みです。



ヤマトプロテック(株)
http://www.yamatoprotec.co.jp/index.php?id=262

お知らせ
■ バス用運賃箱のエコリーフ環境ラベルを取得

レシップホールディングス株式会社の子会社レシップ株式会社(代表: 乾 雅、本社: 東京都港区)は、2013年3月、バス用運賃箱(型番: LF-C-00041)について、社団法人産業環境管理協会が推進するエコリーフ環境ラベル(※)を取得しました。今回の取得は、バス用運賃箱としては初めてのことであり、バス用LED表示室内照明灯、OBD-MONITOR(故障検知装置)、ドット陣LED表示灯に続き、4製品目の産物となります。

当社グループは、2009年からLCA(ライフサイクルアセスメント)の手法を導入し、CO₂削減の観点に向けた取組に取り組んできました。このたびのエコリーフ環境ラベルの取得により、製品の製造から販売・使用・廃棄の全段階で、CO₂排出量などの環境的な環境性能が一貫して公開されます。今後も、環境的な性能を評価するとともに、公共交通に関わる事業者として、環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでまいります。

■ 全体の効果	■ 全ライフサイクル
全寿命周期 (Dk-12-01)	全寿命周期合計
バス用運賃箱 (LF-C-00041)	2,667kg
製造・販売・管理時の組み込み、回収・リサイクル	65,900kg
廃棄・リサイクル	
環境負荷低減効果	

※エコリーフ環境ラベルは、LCAの手法に基づき、製品の製造から、販売、使用、廃棄に至るまでの全ステージにおける環境負荷を定量的に表示する環境ラベルです。

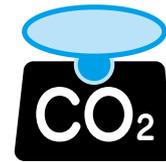
■ 本報に関するお問い合わせ

レシップホールディングス(株) 総務課 広報担当
TEL: 051-824-8121 / FAX: 051-825-2557
▶ メールフォームからお問い合わせ

Copyright(C) 2013 LECIP HOLDINGS CORPORATION
ニュース一覧 | サイトマップ | コーポレート | 採用/お問い合わせ

レシップ(株)
http://www.lecip.co.jp/hd/news/12_12/1221b.html

製品に表示する ①



5

- 環境配慮を全面に出した製品に表示することで、そのイメージを強化する効果を期待。



株式会社でん六 ポリッピー

「太陽と水と大地の恵である農産物を主原料として使用しており、健やかな自然環境のもとでこそ安心して安全な商品が製造できる」という考えのもと、環境配慮を行っている。



シヤチハタ株式会社 乾きまペン

特殊インキの採用により、約2週間、キャップなしでも乾かず長持ち。ペン芯の交換、インキ補充も可能な油性ペン。
エコマーク、グリーン購入に加えてカーボンフットプリントを表示。

マルマン株式会社 エコスパイラルノート

表紙・本文ともにFSCの認証紙を、本文の印刷には環境配慮型インクを、綴じのワイヤの被膜は生分解素材の環境配慮素材を使用しています。さらに製品の原料調達から廃棄までに排出するCO2量を“見える化”する表示「カーボンフットプリント」を業界に先駆けて導入、エコ志向のお客様へ製品選定の基準を提供いたします。

(マルマン株式会社 WEBサイトより引用)



製品に表示する ②



6

- 環境負荷が高いイメージのある製品で、「ちゃんと気を付けてます！」のメッセージを伝える。

富士電機株式会社 自動販売機



富士特殊紙業株式会社
フライスター7 包装材



CSR報告書、WEBサイトに記載する①



- 自社、製品の環境の取組の事例として使用
- 環境に取り組んでいることを社内外に発信
- プロセスごとの数値を出すことで、より具体的な取組について言及できる
- 第三者の検証を受けることで、信頼感アップ

GeoAction100 ITによる地球環境貢献プラン HITACHI Inspire the Next

→ サイトマップ → お問い合わせ

GeoAction100の主な施策 → CFP宣言認定製品の拡大

CFP宣言認定製品の拡大

これまでの取り組み

2008年から2011年まで、経済産業省および関連省庁が推進するカーボンフットプリント制度試行事業(※1)に参加し、2011年12月、国内で初めてサーバ、ストレージ、ネットワークスイッチといったIT機器でCFP(※2)宣言認定製品に登録されました。




製品機能あたりのライフサイクルCO₂排出量を従来機種と比較し、CO₂削減率としてCFPマークへの表示を実現しました。



製品名	削減率	削減率
Network Storage Partition	62.1%	62.1%
Network Storage Partition	62.1%	62.1%
Network Storage Partition	62.1%	62.1%

「日立グループのCFPへの取り組みとビジネス活用」が、製品のライフサイクルという観点から環境負荷削減に取り組む企業を表彰する第9回LOA(Life Cycle Assessment)日本フォーラム表彰においてLOA部門「LOA日本フォーラム会長賞」を受賞しました。

2012年6月、新たにサービスとシステム製品でもCFP宣言認定製品に追加登録しました。

- ・ビデオ会議システム「NetCS+HD(WbioLive) セットアップ100B-II」
- ・「SecureOnline」統制IT基盤提供サービス

※ 日立のCFP宣言認定製品(新規ウィンドウを表示)

今後の取り組み

IT製品のCFP宣言認定製品を拡大していきます。

日立製作所
「GeoAction100
ITによる地球環境
貢献プラン」より

レシップホール
ディングス(株)
社会・環境
エコリーフ環境ラ
ベルの取得

LECIP レシップホールディングス株式会社

社会・環境

2011年6月 お客様のため、社会・環境のために～

安全に快適にご利用いただくために、規定正産を働きかけ

従来の路線バス用照明の保安基準は、蛍光灯や電球を想定して消費電力(W数)を明示する規定があり、LEDでは同等の明るさでも消費電力が少ないため、基準をクリアできないという課題がありました。

そこでバス車体メーカー各社と協力し、関係業界を通じて、従来品と同等の性能確保を目的とする測定基準づくりを進めるとともに、保安基準の早期改正を働きかけてまいりました。このたび保安基準(※)が改正され、バスの室内用照明灯、車外照射灯もLED製品が使用できるようになりました。

現場面での効果だけでなく、バス車内を安全に快適に明るく照明として、さらに製品開発を進め、LED式室内灯の普及を促進しています。

※2011年4月20日付け建設省の保安基準の改正による各社(1車)14年型バス検査合格数(台)です

CSR報告書、WEBサイトに記載する②



カーボンフットプリントの取り組み

携帯サイト ウェブサイト

森の薫り 環境 検索

カーボンフットプリント(CFP)^{※3}とは、ライフサイクルアセスメント^{※4}の手法を用いて、商品などのライフサイクル全体で排出される温室効果ガスをCO₂排出量として表示するものです。日本ハムグループでは、「森の薫り」シリーズ全商品でカーボンフットプリントの算定・表示を行っています。

商品のライフサイクルイメージ ~「森の薫り ハーフペーコン」の場合~

1 原材料をつくる [原材料の調達] CO₂排出量 127g

2 商品をつくる [生産] CO₂排出量 52.6g

3 商品を運ぶ [流通] CO₂排出量 12.2g

4 商品をつかう [使用、維持・管理] CO₂排出量 12.6g

5 包装材をすてる [廃棄・リサイクル] CO₂排出量 9.06g

「森の薫り ハーフペーコン」 CO₂排出量 213g

第三者意見 「カーボンフットプリント」~コミュニケーションツールとしての役割~

地球温暖化が深刻化する中、温室効果ガスの削減はあらゆる利害関係者が等しく取り組まねばならない重要課題の一つです。CFP^{※3}は、目に見えない温室効果ガスの排出量をわかりやすく事業者、消費者に示し、削減に向けた具体的な行動を促すためのコミュニケーションツールであり、製造事業者のみならず消費者にとっても参考にしなければならない環境情報の一つです。今後、CFPのさらなる理解浸透と商品・サービスへの表示を期待します。

グリーン購入ネットワーク 専務理事・事務局長 齋谷 和也 様

^{※3} カーボンフットプリント(CFP) ^{※4} ライフサイクルアセスメント

カーボンフットプリント(CFP:Carbon Footprint of Products)は、直訳すると「炭素の足跡」です。商品・サービスのライフサイクル(上記①~⑤)の各過程で排出された「温室効果ガス」の量を二酸化炭素(CO₂)の量に換算し商品の「パッケージ」などに表示するものです。

商品の原材料をつくることから商品を包む包装材を廃棄するまでの段階ごとに発生する環境負荷を計算し評価する手法のこと。「エコリーフ」や「カーボンフットプリント」ではこの手法を利用しています。

日本ハムグループ
社会・環境レポート

株式会社リコー
プロダクションプリンティング(PP)事業における環境経営方針として、カーボンフットプリント(CFP)印刷物普及促進活動を展開中。「環境経営のリコー」を掲げ、自社だけでなく取引先も含めた環境配慮を訴求するためのツールとしてCFPを利用。

カーボンフットプリント認定カタログ

カーボンフットプリントとは？

カーボンフットプリントは、商品の原料採取から製造・販売・使用・廃棄までのライフサイクル全体で排出される温室効果ガス(CO₂)は、その量を商品に表示して「見える化」することです。全ての商品は、原料の調達から廃棄(再生)にいたるまで、さまざまな製品のライフサイクルがあります。カーボンフットプリントでは、製品のライフサイクルを「原料調達」「生産」「流通」「使用・維持管理」「廃棄・リサイクル」の5段階に分け、それぞれの段階ごとに温室効果ガス排出量を分析・測定し、これをCO₂の排出量として換算した値を算出します。

カーボンフットプリントの表示は徐々に浸透し始めており、印刷物については、グリーン購入ネットワークの和製・サービス発注ガイドラインにおいてカーボンフットプリントが項目に入られるなど、和製業界としても積極的に取り組みが始まっています。リコーは、業界に先がけてプロダクションプリンターによる印刷物でカーボンフットプリントの認定を受けました。

カーボンフットプリント認定カタログ

カーボンフットプリントはリコークリエイティブサービス株式会社と和製している下記のカタログで認定を受けています。リコークリエイティブサービス株式会社は下記のカタログを自社カラープロダクションプリンター、RICOH Pro Cシリーズと和製しています。

カタログ名	カタログ表	カーボンフットプリント認定マーク
TotalFlow RT		1冊あたり 110g CO ₂ CO ₂ の見える化、 カーボンフットプリント http://www.cfp-japan.jp CR-BS02-13005
TotalFlow MR/TotalFlow PM		1冊あたり 110g CO ₂ CO ₂ の見える化、 カーボンフットプリント http://www.cfp-japan.jp CR-BS02-13004

株式会社リコー
http://www.ricoh.co.jp/pp/pod/carbon/

株主向け事業報告書に掲載



- 株主・投資家に収益以外の企業の考え方、姿勢を伝えるためのツールとして使う。
- 企業の長期的な存続、持続可能な社会のための取組を語るための材料として利用。
- 会社のファンとして安定した株主となる投資家を増やすためのイメージ戦略を作る。

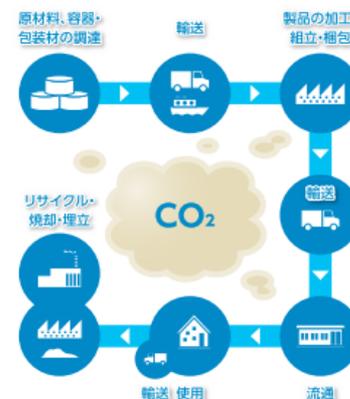
生産工程を通じた環境配慮

《カーボンフットプリント(CFP)への取り組み》

私たちの身のまわりにある様々な製品は、原材料の調達から生産・輸送・消費・廃棄・リサイクルに至るまでの一生を通じて多くのエネルギーを使用します。また、そのエネルギーの多くは石油などの化石燃料から得られるため、製品のライフサイクルにおける各段階でCO₂が排出されています。

カーボンフットプリント(CFP: Carbon Footprint of Products)の略称で、製品のライフサイクル全体を通じて排出されるCO₂を数値化して表示することをいいます。CFPを製品に表示するには製品カテゴリごとに決められたCO₂算出ルールにそって計算を行い、運営機関^{※1}にて認証される必要があります。

※1 2009年度より、経済産業省主導により実施された「CFP制度試行事業」は2012年4月より社団法人産業環境管理協会による運用となりました。



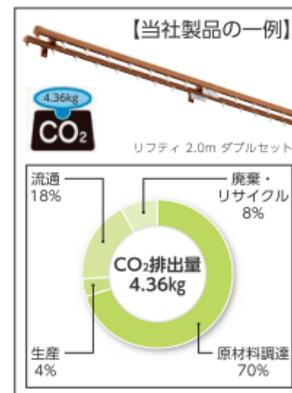
当社はカーテンレールにおいて、業界初となるCFPの「システム認証」取得企業^{※2}の1社となりました。今後もCFPに取り組むことにより、CO₂排出量の「見える化」に努め、排出量が多い要因を分析して効率的なCO₂削減を行っていきます。

※2 自社内で、製品のCO₂排出量の算出、認証することができる企業。

カーボンフットプリント対象製品が増えると...



企業は製品ライフサイクルのどこでCO₂排出量が多いかを把握し、効率的な削減に取り組みようになります。また、消費者の方々にとっては、製品のCO₂排出量を数値で把握することにより、環境負荷の少ない製品を選択する目安にさせていただくことができます。



カタログ・パンフレット等に掲載



□ 営業ツールとして持ち歩き、製品説明時に環境の取組についてもアピール

日本初! CO₂の足跡が見える! シール・ラベル製品「**ノンセパ**」

カーボンフットプリント認定取得

私たちのまわりにある製品は、作られてから捨てられるまでのライフサイクル全体を通じて、CO₂を排出しています。そのCO₂の足跡を見る化したのが「カーボンフットプリント」です。
サトーの台紙のないシール・ラベル「ノンセパ」は、このカーボンフットプリント宣言認定を紙基材にて取得しました。

ノンセパとは? 製造工程から台紙を使わないシール・ラベルです。

あつ! 台紙がない! 割割い! 台紙がないとってもエコなシール・ラベルです!!

さまざまなシーンで使われるノンセパ

ノンセパシール ノンセパラベル

ノンセパシール・ノンセパ(シール)のカーボンフットプリント

原材料調達	生産	流通	使用・維持管理	廃棄・リサイクル
320g	100g	22g	0g	57g

合計 500g

カーボンフットプリントってなに? 500g CO₂削減

カーボンフットプリント(Carbon Footprint of Products)は重要な「環境の足跡」です。カーボンフットプリントマークは製品のライフサイクル全体で削減された温室効果ガスを合計し、それをCO₂換算して表示します。表示する事により、私たちはその製品がどのくらいCO₂を排出して作られているのかが見え、「環境」という新たな指標をもとに製品を選択できるようになります。また、製品に関わる段階での環境へ与える影響を認識するきっかけにもなるでしょう。エコバック使用や節電と同じように、製品を適切に扱うことがエコライフにつながります。

株式会社サトー ノンセパラベル

日本初 11.9kg CO₂ 経済産業省カーボンフットプリント(CFP)制度認定断熱材 『**デコスファイバー**』

2011年11月11日、株式会社デコスが断熱用断熱材として日本でも初めてデコスファイバーへのカーボンフットプリント(CFP)マーク使用許可認定を受けました。これは、「デコスファイバー」が他の断熱材と比較して、製造過程のCO₂排出量が極めて低く、かつ「デコスドライ工法(断熱材詰め工法)」により断熱材に転換できる施工性の良さ、建物自体の省エネルギー性を確保しやすいことから、その省CO₂性能を公的に証明するため経済産業省のカーボンフットプリント(CFP)制度に申請申請を行なった結果によるものです。

今後、「デコスファイバー」に CFP マークを表示することで、建築用断熱材分野におけるカーボンフットプリント制度普及の牽引役を担うとともに、**公共建築物等の木材利用促進**や、今後採用が進む **CASBEE** や **LCCM** 住宅などを通じて、低炭素社会に向けた建築業界での CO₂ 排出削減や環境に対する意識向上に、デコスドライ工法のさらなる発展につなげていく考えです。

「デコスファイバー(セルロースファイバー)」、「デコスドライ工法」とは?

新聞紙をリサイクルした木質繊維系の断熱用断熱材。次次み用断熱用断熱材 JIS A 9523 認定品。生産段階で使用するエネルギーは電気のみ。

断熱(冬暖)、水(炎・地震)など一役買しないため、他の断熱材に比べ省スペースで断熱効果が期待できるという特長を持ち、断熱性・耐火性・防音性・多機能な性質を持ち、認定施工代理店が施工するデコスドライ工法(充填工法)により、断熱効果の高い断熱材の断熱性能を高めることができます。断熱・省電の両面から断熱工法に特化したシエ率は約1%。

カーボンフットプリント制度とは?

製品を購入し、消費している商品やサービスは、作る段階から送る段階まで、様々な温室効果ガス(CO₂)を排出し、それによって温室効果ガス(CO₂)などの温室効果ガスを排出します。カーボンフットプリント(CFP)とは、製品・サービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通じて、どれだけの温室効果ガスが排出されたかを CO₂ に換算して「見える化」し、分かりやすく表示する仕組みです。「買値の足跡」、つまり「製品の一生で各段階で消費された温室効果ガスの量を削減」し、環境負荷を減らすことができます。

また、CFPマークは、製品・サービスのライフサイクル(CO₂削減)の削減・生産～流通～使用～維持管理～廃棄・リサイクル)各段階で削減されたCO₂削減量を算出し、合計した数値を表示します。

合計したCO₂の量「カーボンフットプリント」

株式会社デコス デコスファイバー

愛内子 愛媛県産 菌床しいたけ

毎日の食卓にもエコを。

愛媛県 内子町で地球にやさしい、しいたけができました。

日本初! (国内初) 「CO₂の見える化」を実現した「カーボンフットプリント」しいたけ、愛ひめ

久保興業株式会社は、地球温暖化防止を推進し「日本で初めてとなる、しいたけのカーボンフットプリント認証」を実現することができました。環境問題に自ら向き、最新の温室発菌器に木質バイオマスペレットボイラーを導入するなど、環境に配慮した「しいたけ菌床栽培」に取り組む。使用済みの菌床を回収した家や、各農家がもつて来たり、再度使用率約 100% を目指しています。

愛媛県 内子町「自然の創造」のパッケージが自印です。

おいしかったレシピもホームページで公開中! <http://www.kubococ.com.jp/inosan/>

カーボンフットプリントとは 439g CO₂削減

菌床の原材料調達から維持管理、そして農業から消費まで、しいたけのライフサイクル全体を通じて削減された温室効果ガスの削減量をCO₂換算して「見える化」したのが「CO₂削減」です。

株式会社サトー ノンセパラベル

株式会社デコス デコスファイバー

久保興業株式会社 菌床しいたけ

名刺等に記載



12

事務局で「CFPに取り組んでいます」シールを作成、
発注に応じてお渡ししています



一般社団法人産業環境管理協会

製品環境部門 部門長付 兼 LCA事業推進センター
エコデザイン事業室長
環境カウンセラー (事業者部門)

平野学



〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町二丁目2番1号
(三井住友銀行神田駅前ビル)
電話 (03) 5209-7712 FAX (03) 5209-7716
E-mail hirano@jemai.or.jp URL <http://www.jemai.or.jp>

(再生紙使用)

株式会社デコス
名刺に足跡マークの穴をあけて「(カーボン)フット
プリント」に取り組んでいることをアピール



断熱事業部 次長
環境 太郎
2級建築士/CASBEE戸建評価員



株式会社 デコス

東京OFFICE / 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-3-8 日本橋徳和ビル8F
TEL: 03-3516-8056 · FAX: 03-3272-2753 <http://www.decos.co.jp>
Mobile: 090-9999-9999 ✉ xxxxx@yyyyy.co.jp

株式会社ファインテック
名刺にエコリーフを記載



株式会社 ファインテック
FINE TECHCo.,LTD.

環境事業部 環境 太郎



〒910-0018 福井県福井市田原 1-1-21
TEL (0776) 28-1111 FAX (0776) 28-1800
E-mail : xxxx_yyy@zzzz.co.jp
URL : <http://www.e-finetech.com/>

この用紙は非木材紙ケナフケントを使用しています

From the cradle to the grave

名刺は「会社の顔」
会話のきっかけになります。

展示会のトピックスに活用

HITACHI
Inspire the Next

News Release

2013年10月9日
日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社

ATMで国内初のカーボンフットプリント宣言認定を取得

日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社(代表取締役社長:下條 哲司)は、このたび、国内で初めて ATM で、製品ライフサイクル全体での CO₂ 排出量を表示するカーボンフットプリント(Carbon Footprint of Products/以下、CFP)^{*1} 宣言認定を取得しました。対象製品は、新型 ATM「AKE-S」です。



新型 ATM「AKE-S」

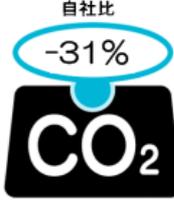
HITACHI
Inspire the Next

News Release

■「Hitachi Innovation Forum 2013」での紹介について
今回 CFP 宣言認定を取得した新型 ATM「AKE-S」は、2013年10月30日(水)～31日(木)に東京国際フォーラムで開催する「Hitachi Innovation Forum 2013」において紹介します。
<http://iforum.hitachi.co.jp/>

■新型 ATM「AKE-S」の CFP マーク

自社比



CO₂の「見える化」
カーボンフットプリント
1年あたり

<http://www.cfp-japan.jp>
検証番号: CV-CI04-13002

新型 ATM「AKE-S」を従来機種「AK-1」と比較すると以下の表になります。

		対象製品	従来機種
製品名		現金自動取引装置(AKe-S)	現金自動取引装置(AK-1)
型式		TS-E112-XXXXXXX	TS-E111-XXXXXXX
CO ₂ 排出量*	製品あたり	5000 kg-CO ₂ e	7300 kg-CO ₂ e
	1年あたり	720 kg-CO ₂ e	1040 kg-CO ₂ e
測定条件		測定条件:動作モード、待機モード、および、省エネモードの消費電力を収集する。	

対象製品の特徴 (従来機種比較)
・稼働時、待機時の消費電力低減

* この製品のCO₂排出量(製品あたり)は、想定使用期間(7年)で算出しています。
(1年あたり)の数値は、想定使用期間(7年)で除した数値となります。

日立オムロンターミナルソリューションズ(株)
自社製品(ATM)の環境の取組を削減率で表示し、
環境性能をアピール

新商品の発売や展示会などのタイミングに合わせてCFP宣言を行い、話題を作る。
削減率の表示を行うことで、環境の取組の結果、効果を効果的に見せる。
使用時電力などの性能によるCO₂削減は、顧客メリットとして説明することも可能。

広告を出す



14

「エコリーフ取得」を記載 (電線ケーブル 矢崎エナジーシステム株式会社)

2008年には、製品の環境情報を公開していることを示す
「エコリーフ環境ラベル」を電線業界で初めて取得しました。

大江戸線赤羽橋駅
(矢崎エナジーシステム
本社最寄駅)にて掲載中

電気を引っ張ってきた。
エコの時代も引っ張ってきた。

今から30年も前から、矢崎の電線はYAZAKIの優等生でした。
銅の部分は、加えて再び電線に、回りのプラスチックの部分も、
電線を巻くドラムなどに再利用。今では、なんとその95%以上が再資源化されています。
2003年には、鉛を使わない、安全な鉛化ビニール素材を開発。
2008年には、製品の環境情報を公開していることを示す
「エコリーフ環境ラベル」を電線業界で初めて取得しました。
使われているかも知れませんよ。

いいエコは、ゆっくり。

YAZAKI

http://www.yazaki-group.com/

環境の取組として営業活動に利用



15

- まだ取組社数が少ないので、「業界初！」の環境の率先取組というアピールができる。
- 業界団体、自治体、CFP事務局などからの依頼によるセミナーでの講演、会社の名前を売れる機会ができるかも。
- 「エコ」関連での新たなつながりを作る。
- エコプロダクツディレクトリへの掲載。

セミナー等では、CFP、エコリーフを積極的にご活用いただいている事業者の方々に事例としてお話をいただいています。

環境に興味を持って集まるたくさんの方々に、製品の特徴や自社の環境の取組等について聞いていただくことができます。

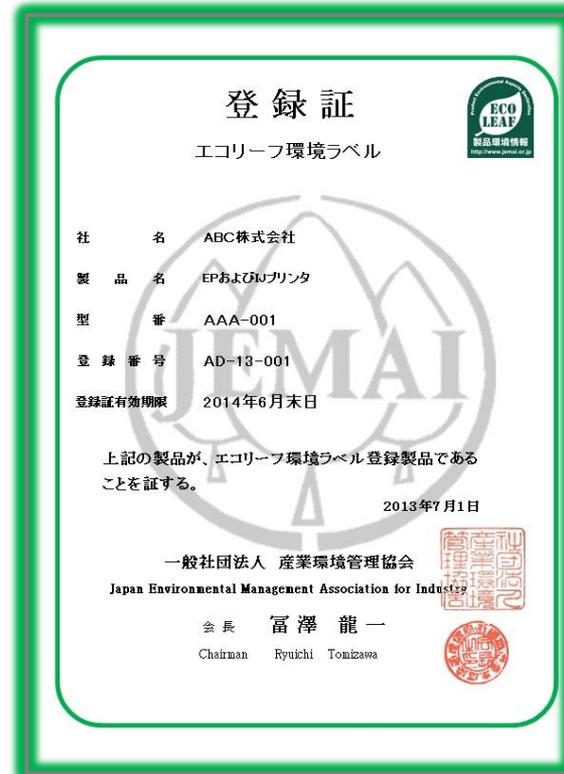


認定証を活用



16

- 「ちゃんと取り組んでいる」証明書で企業、製品イメージアップを狙う(営業ツールとして製品、カタログとともに提示)
- →他社と価格以外の部分での差別化を。



※ご希望の方のみ。発行の際は1,050円/件の事務手数料をいただきます。

他の制度への対応



17

- EPEATゴールド認定を狙うためのポイントの一つとして利用。
- 容器包装リサイクル法の「プラスチック製容器包装再商品化製品の高度な利用」の評価において「加点評価」(高度な利用重量が10%増)を受けられる。
- 環境フットプリント対応への準備として、データ整備を行う。

EPEATとは

電子製品の環境パフォーマンスツール。米国の公共調達要件となっている。必須項目すべてに対応するとブロンズの認証が得られる。任意項目の適合数によってシルバー、ゴールドの認証となり、第三者認証によるLCAの実施が任意項目の一つに挙げられている。

【認証レベル(金・銀・銅)】

必須項目 全て適合	必須項目全て＋ 任意項目50%適合	必須項目全て＋ 任意項目75%適合

グリーン購入プレミアム基準



- 「誰もが達成して当たり前前の基準」ではなく「胸を張れる基準」の対象になっていることをアピール。
- 調達条件(加点項目など)に盛り込んでもらうことで、他社との差別化が図れる

グリーン購入法「プレミアム基準策定ガイドライン」より抜粋:OA機器の例

OA 機器（コピー機等、プリンタ等、電子計算機、プロジェクタ、カートリッジ等）の設定例

プレミアム基準の考え方	<ul style="list-style-type: none">(1) 現行の判断の基準の強化<ul style="list-style-type: none">・ エネルギー消費効率の引き上げ（消費電力量の場合は削減） → 目標年度が数年程度先となっているトップランナー基準、等・ 有害物質の使用制限、長期使用等・ 再使用・マテリアルリサイクル率、再資源化率の引き上げ（カートリッジ等）(2) 新たな評価軸の追加<ul style="list-style-type: none">・ 配慮事項の判断の基準への格上げ（数値等明確性の確保）・ 有害物質の使用制限、環境配慮設計、長期使用等(3) 自己適合宣言の強化又は第三者等による物品等の認証・確認<ul style="list-style-type: none">・ エコマークにより認定又は同等以上の物品等(4) 他の環境施策との連携による相乗効果<ul style="list-style-type: none">・ エコリーフにより認証又は同等以上の物品等・ カーボンフットプリントコミュニケーションプログラムにより検証又は同等以上の物品等
-------------	--

- 環境配慮に先駆的に取り組む組織等により市場の牽引・イノベーションの促進を図るためのリーダーシップ的な基準
- 物品等の製造・提供事業者に対しても、環境配慮の先進性を訴求・差別化するための開発目標となりうる基準



将来（2,3年ないし5年程度を目標）の特定調達品目に係る判断の基準等として位置づけを行うことが見込まれる基準

- (1) 現行の判断の基準の強化（数値的強化等）
 - ・ 他の制度や環境ラベル等の基準において、より高い基準が設定されている場合は当該基準を準用すること（具体的にはエコマーク認定商品のうち上位互換のもの、多段階評価基準の上位等が該当）
 - ・ 重視すべきライフサイクル段階・環境負荷項目について、現行の判断の基準と比較して基準値が強化されていること
- (2) 新たな評価軸の追加
 - ・ 現行の判断の基準に新たな評価軸（ライフサイクル段階、環境負荷項目）が追加されること
 - ・ 配慮事項を判断の基準へ格上げすること
- (3) 自己適合宣言の強化又は第三者等による物品等の認証・確認
 - ・ 適切かつ徹底的な情報開示による自己適合宣言が行われていること
 - ・ 基準への適合について第三者等が行っている認証制度等により確認されていること
- (4) 他の環境施策との連携による相乗効果
 - ・ 物品等のカーボン・オフセットやカーボンフットプリントの認証等が行われていること

団体戦で勝つ！



19

取引先とともに、サプライチェーンでの環境管理を推進し、それを強みとして打ち出す。

 News Release

RICOH
imagine. change.

2013年7月16日

リコー、PODの環境負荷削減について考える「グリーンPOD研究会」を開催

株式会社リコー(社長執行役員:三浦善司)は、商用印刷市場、特にPOD(Print On Demand)における環境負荷削減活動の推進を目的として、印刷物の発注者と、印刷物の提供者の皆様にお集まりいただき、「商用印刷市場の環境への取り組みの普及」をテーマに協議する「グリーンPOD研究会」を開催いたします。具体的な討議項目は次の通りです。①商用印刷市場における環境活動の検討②その活動の普及に必要な施策の検討 ③商用印刷市場で環境負荷削減を進めるのに必要な仕組みの検討

研究会では、アドバイザー、オブザーバーとして、業界団体や、官公庁からの参加協力を得て、討議で必要となる情報のご提供や、アドバイス等をお願いしています。7月からおよそ2ヶ月おきに3回開催し、アドバイザー、オブザーバーを含めた活発な討議により、商用印刷市場の環境活動活性化に役立つ方策を模索してまいります。必要に応じて、研究会でまとまった見解を該当組織に提言することなども視野に入れていきます。



建材・印刷・食品の3分野では参加事業者・関連団体等による戦略検討WGを開始。

サプライチェーンに関わる取引先やを招待したり、業界団体での研究会、セミナーを開催。関係強化を図るために活用する。

環境意識の高い企業同士で連携、情報交換を行い、環境性能の優れた製品が団体戦で勝てるための戦略を練る。

カーボンオフセットに活用①



20

- 具体的に地球環境に貢献したよ！と言える。
- その根拠がきちんと説明できる。
- 特にどんぐりマーク等の国の事業は、官公庁・自治体からの発信による、新聞等の媒体への広報宣伝効果も期待できるかも。
- オフセットの仕方の工夫で自社の取組のストーリーを語れる

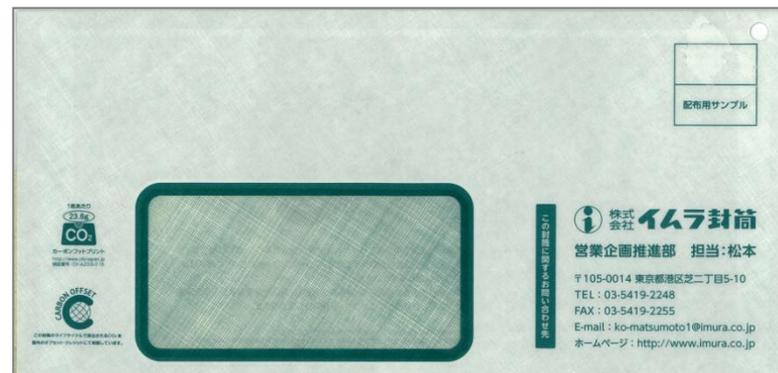
カーボンフットプリントを活用した カーボンオフセット製品」試行事業

経済産業省の主導により、昨年度より開始。CFPで検証を受けた製品のCO2排出量の全量を、クレジットによりオフセットしたことを認証する。昨年度は8社が参加し、エコプロダクツ展の経済産業省ブースで展示が行われた。



JAレーク大津 はなふじ米

上記事業に参加した8製品のうち唯一の農産物として、玄米21トンを地元「琵琶湖畔おごと温泉湯元館におけるボイラー更新プロジェクト」の国内クレジットでオフセットしています。



イムラ封筒株式会社

この封筒はCFPの値を全量「釜石市緑のシステム創造事業」のJ-VERでオフセットしています。

カーボンオフセットに活用②

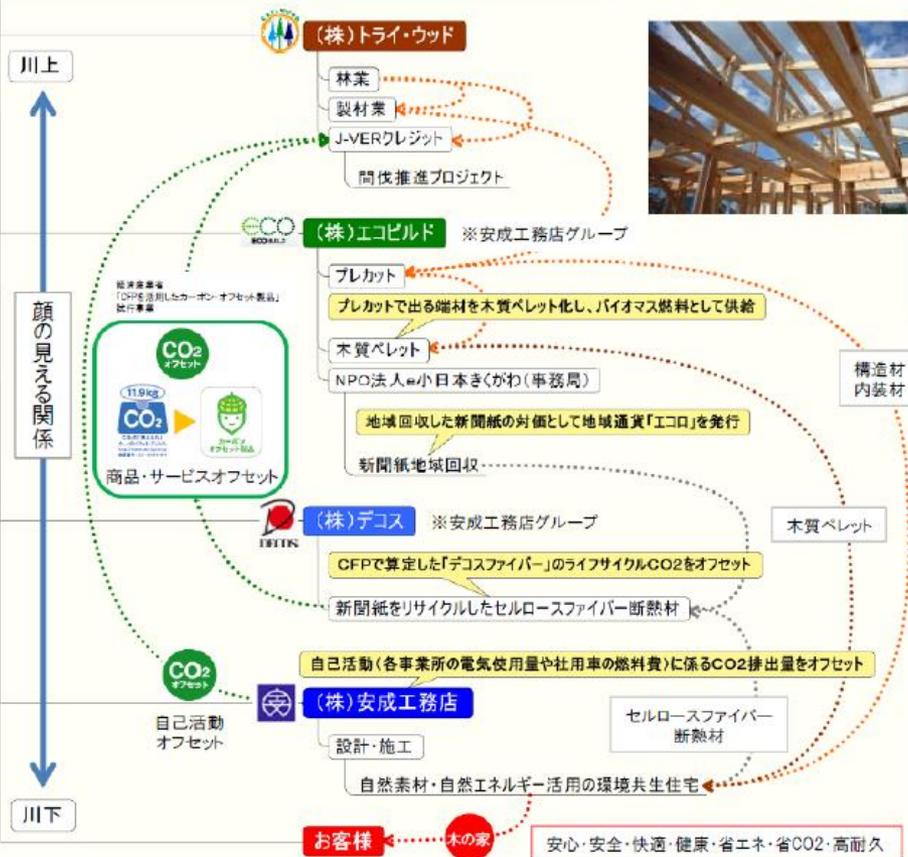


カーボン
オフセット大賞
優秀賞受賞

グリーン購入大
賞経済産業
大臣賞受賞

概要図

近くの山の木でつくる、省CO2で心地よい木の家プロジェクト



◆プロジェクトのポイント

- 林業～プレカット～断熱材～工務店が関わる省CO2木の家プロジェクト
- 川上から川下まで、お客様を含めた「顔の見える関係」を構築（エコビルドツアー・森林体験バスツアー）
- 小さな地域循環を連鎖
- 環境啓蒙活動を継続的に実施
- クレジット購入で森林保全を支援



◆プロジェクトのねらいと効果

- 省CO2に配慮した心地よい「木の家」づくり
- 工務店・断熱材メーカーがクレジット購入を通じて森林保全を支援
- 川上から川下まで、環境をキーワードにそれぞれの立場でCO2削減を実施
- 木材とJ-VERクレジットの地産地消推進
- 地域循環と環境教育を結びつけたネットワークの形成(NPO等)

間伐による保全、J-VER
創出をする森林

＋
バイオマス燃料を活用
する木材事業者

＋
どんぐりマークのカーボン
オフセット事業に取り
組む断熱材事業者

＋
事業所エネルギーをオ
フセットした工務店

↓
それぞれの立場で低炭
素の取組をして家を建
てるプロジェクト。

環境系の大賞に応募



- グリーン購入大賞
- カーボンオフセット大賞
- LCAフォーラム大賞
- エコプロダクツ大賞
- その他



応募期間：
平成25年8月26日
～11月8日



平成25年度 第10回LCA日本フォーラム表彰 募集要項

- ▶ [第10回LCA日本フォーラム表彰 募集要項](#)
- ▶ [第10回LCA日本フォーラム表彰 応募申請書](#)

応募期間：平成25年8月26日(月)から11月8日(金)

1. 目的

LCA日本フォーラムは、LCAに関わる産官学の関係者の情報交流を図るネットワークとして平成7年10月に設立され、平成23年度より日本環境効率フォーラムと統合し、LCAと環境効率(eco-efficiency)に関する調査・研究活動、情報交流促進活動、啓発・普及活動を進めており、わが国におけるこれらの普及と発展を図るとともに、持続可能経済社会の実現を目指すことを目的として活動している。

LCA日本フォーラム表彰は、LCAと環境効率に係わる優れた活動および製品・サービスを表彰することにより、LCA手法を広く普及・定着させ、環境効率向上による技術革新を追求し、わが国の産業の発展に資することを目的とする。

報道機関各位



平成25年10月15日、株式会社デコス
 株式会社 デコス
 デコス、「第15回 グリーン購入大賞」にて大賞および
 経済産業大臣賞を受賞！
 12/13 (金) エコプロダクツ2013 (東京ビッグサイト) にて表彰式

2013年10月15日、株式会社デコス(代表取締役:安成信次、本社:山口県下関市 以下、デコス)は、「第15回グリーン購入大賞」(主催:グリーン購入ネットワーク(GPN) 後援:環境省、経済産業省、農林水産省、日本経済団体連合会、WWFジャパン、読売新聞社、毎日新聞社、日刊工業新聞社、日経BP社)において、「新聞紙をリサイクルした断熱材『デコスファイバー』&断熱欠損を生じない乾式吹込み工法『デコスドライ工法』におけるカーボンマーケティングを通じたグリーンコンシューマーの拡大」にて、栄えある大賞
 これからもデコスは、低炭素グリーンコンシューマーの

- (3) **カーボンマーケティング**
 CFPでCO2排出量の「見える化」を行い、カーボン・オフセットで「自分ごと化」「減らす化」。国の施策に準じて「実質排出ゼロカーボン断熱材」を日本で初めて実現する。
 ・2011年11月 建築用断熱材として日本初、経産省カーボンフットプリント制度試行事業「CFPマーク認定取得」。
 ・2012年12月 経産省「CFPを活用したカーボン・オフセット製品」試行事業に採択。(下図:概要図参照)
 ・2013年1月 第2回カーボン・オフセット大賞優秀賞受賞。(上記内容にて受賞)
 ・2013年3月 「IAPEC carbon labeling workshop」にて、「カーボンラベルの中小企業での活用」日本代表事例として産業環境管理協会より報告。



新聞・雑誌等に取材・掲載してもらおう



【掲載例】

- 2012年11月26日 日経産業新聞 リコー、CO2表示指南 調達から廃棄まで自社製品で算出
- 2010年4月14日 日本繊維新聞 帝人ファイバー「エコサークル」ユニフォーム 富士フィルムが採用
- 2013年3月13日 日刊工業新聞 画像機器 環境配慮 米で突出 キヤノンとリコー、最高評価独占 再利用など販促に寄与
- 2013年4月5日 日刊工業新聞 カーボンフットプリント 中小の登録料負担軽減
- ワールドパルプ&ペーパー2013年3月18日号 建材メーカー、デコスの住宅用断熱材 CFPからオフセット試行事業へ
- 日経エコロジー2013年3月号 環境コミュニケーション、次の一手 グリーンウォッシュを防ぐ キヤノン「見せかけ」避ける処方箋 業界初のCFP認証 LCAの取組を形に
- 日経エコロジー2013年8月号 カーボンフットプリント 採用するかの判断は使用时CO2で変わる (キヤノン×コクヨ)
- 2013年7月17日 日刊工業新聞 印刷の環境負荷低減 リコー
- 2013年10月8日 日刊工業新聞 広がるグリーン調達 建材製品CFP活用で先陣 トーソー

どんぐりポイントに参加して広告してもらおう

今年度は、ラジオ番組や読売新聞などで、自社の商品が紹介されます。

【2013年度】

発表・イベント

広告

ラジオ放送

11月

経済産業省・コンソーシアム共同記者会見

■高校生向けエコ情報誌配布(11月～)

12月
12月

■エコプロダクツ2013出展(東京・12月)

■エコ・エシカル出展(札幌・2月)

■カーボンオフセットEXPO出展(東京・2月)

3月

企業向け成果発表会

■小学校向けパンフ配布

■「東京スカイツリー ソラマチ広場」への出展
※高校生向けPRブース設置

■日経エコロジー1月号

■YOMIURI ONLINE

■リビング新聞(重点地域)

■日本教育新聞

■日経エコロジー4月号

■読売新聞 全15段

■YOMIURI ONLINE

■ラジオでの告知番組
(文化放送)

11月～12月 10分枠/週

■ラジオでの告知番組
(文化放送など3地域)

1月～3月 10分枠/週

読売新聞/日経エコロジー(掲出広告イメージ)



←どんぐりポイント
協賛社名・商品名・
商品写真が掲載さ
れます。

協賛企業 4つの特典(2013年度)

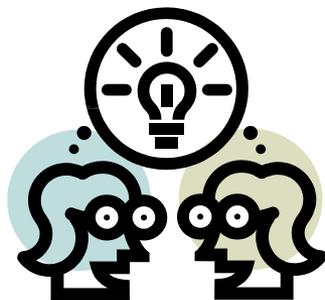
- ①ラジオ番組での企業名・商品名の紹介(文化放送など3地域)
- ②読売新聞/日経エコロジーの純広枠での企業名・商品掲出
- ③日本教育新聞の純広枠での企業名記載
- ④YOMIURI ONLINEのキャンペーンサイトでの企業名・商品掲出

約500万円(試算)の広告効果アリ!



取得することではなく、活用することを
目的に据えて取得しましょう

使い方はアイデア次第です。
より良い活用方法を見つけてください。



ご相談・お問い合わせは



27

一般社団法人産業環境管理協会
製品環境部門 LCA事業推進センター
エコデザイン事業室

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-2-1

三井住友銀行神田駅前ビル

TEL:03-5209-7712 FAX:03-5209-7716

URL:<http://www.jemai.or.jp/>

◆エコリーフ環境ラベル

E-Mail:ecoleaf@jemai.or.jp URL:<http://www.ecoleaf-jemai.jp/>

◆カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム

E-Mail:cfp@jemai.or.jp URL:<http://www.cfp-japan.jp/>